

- 2 年頭にあたって
- 3 特集◎曹洞禅を物語に
その創作への挑戦を探る
Interview 今、伝えたい 継承の物語
Impression 平和と誓願の行脚
Afterword 私たちの「リアル」を物語にできるか
- 7 全曹青、発信せよ。
委員会、只今活動中
管区理事インタビュー
「全曹青と管区の架け橋として」(2)
- 12 加盟団体ニューススポット
東北・東海・中国管区大会レポート
- 14 賛助費浄納御芳名簿
- 16 あまみずダイヤローグ 9
“医信同源”の診療所(後編)
- 18 曹洞宗の袈裟に学ぶ 12
戦国期から江戸中期の掛絡
- 20 寺めぐり 街めぐり 3
瑞雲萬歳山
大寧護國禅寺を訪ねて
- 23 メメント 生死を想う 3
- 24 次期会長選考公募について

年頭にあたって



全国曹洞宗青年会 会長
久間泰弘

改歳之令辰 謹伸嘉惊儀

新年明けましておめでとうございます。
謹んで平成22(2010)年の新年を迎え、皆々様のご多幸とご健勝を心よりご祈念申し上げます。

第18期が、「いのちの声に耳を澄ます」というスローガンを掲げスタートして半年余りが経過しました。この間、前期よりの組織改編を受けてその歩みを刻んできた訳ですが、新しい体制の中で改善すべき点もあり、出向者一同、現在もより良い会務運営を目指し懸命に努力しているところでございます。

さて、日々の世相を顧みるに、多くの尊い命が損なわれ、政治経済不安による社会情勢も激動変化の中にあり、自然災害は日本国内に限らず地球規模で頻発しております。

確かに私たちは覚束無い立場で毎日を生きている存在です。しかし、そうであるからこそ、時を惜しみ、自らの菩提心の発露によって、混迷する現代での布教化に邁進する強い意志を持ち続けることが肝要であると思うのです。

私たちが、自ら求め、世間から求められる宗教的自己の確立は、天童如浄禅師の「梅は早春を開く」の語にあるように、自身の主体的意志と行動によって自らが開かれ、そして、その日常世界を開くことによって達成されていくのであろうと考えています。

私たち第18期全員、万物咸新の時節に今一度あらためて初心を思い返し、全国の皆様とともに、自己省察と慈悲行の実践に取り組んで参りたいと存じます。

本年も、皆様方には、昨年と変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。



sousei ばれっと
熊本県曹洞宗青年会